

令和7年度 学校評価（後期）

伊予市立下灘小学校（令和7年12月）

【評定基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成

【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定

重点目標	番号	評価指標 及び 目標値 ※ 目標値は、教職員・児童・保護者の肯定率が、80%以上が肯定である。	評定 R 6 → 7 → 7 後 前 後	学校による考察・改善方策	対 象 R 6 → 7 → 7 後 前 後	達成評価		肯定率		集計結果			
						R 6 → 7 → 7 後 前 後	R 6 → 7 → 7 後 前 後	R 6 → 7 → 7 後 前 後	4 大変良い	3 良い	2 あまり良くない	1 良くない	
		学校は楽しい。	A → A → A		児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	78%	22%	0%	0%		
「じっくりと考える子」を育む	1	本校では、チャイムの合図、次の授業の準備、話を聞く態度等、学習規律や学習態度の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学習規律・学習態度が身に付いていますか。	A → A → A	教職員100%、児童96%、保護者90%の肯定率で、高い水準を維持している。これまでの積み重ねにより、児童は落ち着いた態度で学習に取り組み、授業中の席立ちがなくなってきた。しかし、前期と比較して、保護者の肯定率が下がっているため、今後は学校全体で学習規律や学習態度の定着に一層努めていき、特に話を聞く力や自己有用感などの、否認知能力の向上を目指していきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%		
	2	本校では、学習課題を明確にした、分かる授業づくりのための授業改善に努めていますが、あなたのお子さんは、文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしたりしていますか。（参観日の授業や家庭での会話などから）	A → A → A	前期の結果と比較すると、教職員の肯定率が下がっている。2学期に、全教員による研究授業を実施し、授業における課題が見えてきたからだと考える。複式授業においても、児童が文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしたりするための分かる授業づくりに努めたい。今後も、教員間での情報共有等を積極的に行うなど深い学びに向けた授業改善を推進し、教師一人一人の授業力の向上を目指したい。	児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 96% → 96%	52%	43%	4%	0%		
	3	本校では、朝読書の時間を設けたり、児童会「図書委員会」から読書の楽しさを伝えたりして読書活動を推奨していますが、あなたのお子さんは、読書に親しんでいますか。	C → C → C	読書に楽しさを感じていない児童が多いことが課題であったが、2学期に、図書委員会が中心になり、読書活動推進に向けたクイズや読書bingo、読書パズルを行うことで、徐々に図書室を利用する児童が増えた。また、12月には、おすすめの本を紹介し、最も読みたくなった本を決定する「ビブリオバトル」を行い、本の面白さを伝え合ったことで、読書の楽しさ実感した児童が増えたと考える。今後も、児童が本を身近に感じ、楽しみながら読書を進められるように、図書委員会の企画を工夫したり、ビブリオバトルのような本に親しむ機会を増やしたりしたい。	教職員	○ → △ → △	67% → 0% → 33%	17%	17%	67%	0%		
	4	本校では、ステップ学習や学んだことを振り返る機会を確保し、一人一人の実態に応じた学力の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学校で学習したことが身に付いていると思いますか。	A → A → A	朝ドリルの時間を中心に、学習したことをしっかりと振り返る時間を確保したことにより、学力の定着につながっていると考える。2学期の児童の学力状況を見ても、前期に比べ確実に向上している。今後も、タブレットPCを効果的に活用したり、授業内容を改善したりして、児童のさらなる学力向上につなげていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%		
	5	あなたのお子さんは、早寝・早起き・朝ご飯を心掛け、食後の歯磨きなど望ましい生活習慣が身に付いていますか。	A → A → A	早起きはできているが、早寝に関しては習い事がある日に就寝時刻が遅くなる傾向があり、疲労がたまっている児童もいる。また朝ごはんは、全家庭で食べることができていて、内容については「パンだけ」「おにぎりだけ」という児童が多く、バランスのよい朝ごはんがとれるよう啓発していきたい。歯みがきに関しては、歯科衛生士と連携した歯みがき指導を通して意識が高まってきた。引き続き家庭と連携して指導をしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%		
	6	本校では、登下校指導や学級活動等を通して、安全教育に努めましたが、あなたのお子さんは、登下校や遊びなど、いろいろな場面で、安全に注意して行動していますか。	A → A → A	地域の方の登下校時の見守りのおかげで、児童の交通安全等に関する意識が高まっている。今後、児童自身が自分の命は自分で守るという意識を育てていく必要がある。さらに、安全かどうかを判断する力を育て、互いに注意し合いながら学校生活を送れるようになるとよいと考える。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%		
	7	本校では、体育科の授業の充実及び、外遊びやITスタジアムへの参加による体力つくりに努めています。あなたのお子さんの体力は向上していると思いますか。	A → A → A	教職員、児童、保護者とも100%の肯定率であった。鬼遊びや業間マラソン、縄跳びなど、学年に応じて一人一人の体力の向上につながるよう指導を続けている。県が推奨する「えひめ子どもスポーツITスタジアム」の競技にも挑戦し、クラス全員で目標に向かって運動する機会がプラスに働いている。引き続き、運動に親しむ児童を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%		

む む	8	本校では、3年生以上の子どもたちが下灘太鼓の練習に一生懸命取り組み、継承・発展に努めています。学校は、伝統や地域を大切にする気持ちを育てていると思いますか。	A → A → A	後期も、6年生を中心に、毎週の下灘太鼓の練習に一生懸命取り組むことができた。練習では、より良い演奏にするためにはどうすればよいか、意見を出し合いながら活動することができている。また、後期もゲストティーチャーの方に来ていただき、練習の様子を見ていたいたり、アドバイスをいただいたりすることができた。経験者に直接教えていただくことが、技術の向上や伝統を受け継ごうという意識の向上につながっていると考える。学期末には、6年生から在校生にしっかり下灘太鼓の引継ぎが行えるようサポートしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	85% → 91% → 100%	52%	48%	0%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%	
「なかよく 明るい子」 を育む	9	本校では、様々な教育活動を通して人権・同和教育の推進に努めていますが、あなたの子さんは、互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができると思いますか。	A → A → A	人権・同和教育の推進に当たり、今年度は「人権ミニ研修」と称して教職員研修を5回行った。今後も、定期的にミニ研修を行い、児童を指導する立場である教職員の人権感覚が高まるように努めたい。そして引き続き、家庭(保護者)と連携しながら、人間関係を良好に整えられる力を身に付けさせるとともに、が悪化する前に対処できるようにし、自分の良さを知り自分を大切にする児童、他者の良さを知り他者も大切にする児童の育成を今後も進めたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 96% → 100%	48%	52%	0%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	95% → 100% → 100%	20%	80%	0%	0%	
「だんだん のびる子」 を育む	10	本校では、道徳教育の充実に努めていますが、あなたの子さんは、思いやりや優しさ、望ましい行動や善悪を判断する力などの道徳性が育っていると思いますか。	A → A → A	道徳科では、2学年一斉で学習することで、多様な考えに触れ、道徳的な判断力、心情、態度が育ってきていることがうかがえる。また、他校や、本校児童が居住していない下灘地域の皆さんとの交流活動を行うことで、新たな人間関係を生み、自分の生活を支えてくださっている方の存在を知り、思いやりや優しさのある言動を心掛ける心情も芽生え始めている。今後も、道徳科の授業だけでなく様々な体験活動を通して、児童の道徳性を育んでいきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 100% → 100%	48%	52%	0%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 89% → 90%	10%	80%	10%	0%	
管理・運営	11	本校では、児童会「えがおいっぱい委員会」を中心に挨拶運動を推進していますが、あなたの子さんは、家庭や地域で気持ちのよい挨拶ができますか。	A → A → A	「えがおいっぱい委員会」の活動の効果もあり、挨拶ができる児童が増えている。今後もよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶をしたり、会釈をしたりするなど、相手や場面に応じ、進んで気持ちの良い挨拶ができる児童を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 100% → 96%	35%	61%	4%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%	
12	本校では、子どもたちが自己肯定感をもてるように、一人一人を大切にした指導の充実に努めています。あなたの子さんは、自分のことを好きで大切だと思えることができていますか。	A → A → A	小規模校のよさを生かして、学校行事や集会等で一人一人が活躍できる機会を大切にした指導に取り組んでいる。また、縦割り班活動や、複式学級での学習を小規模校の強みとしてとらえ、上学期の児童が下学期の児童のお手本となったり、リーダーとなったりする機会を生かして、児童の自己有用感や自己肯定感を高め、自分のことが好きで大切だと思う気持ちを育てていきたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 96% → 96%	57%	39%	4%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	89% → 89% → 100%	60%	40%	0%	0%	
13	本校では、学年の発達段階に応じて、相手と自分との関係を意識した敬語や丁寧語についての理解を促し、適切に使うことができるよう指導しています。あなたの子さんは、時と場に応じた言葉遣いができますか。	A → A → A	本校では、地域の方と交流をする機会や、地域ボランティアの方に学校の整備等をしていただく機会が多い。その機会を捉えて、地域の方が児童を見守ってくださっていることに感謝の気持ちを伝えるように指導しており、その場面では、関係性を意識した敬語が適切に使うことができている。しかし、普段の学校生活においては、お互いが近い存在であるがゆえに、異年齢の児童間や、児童と大人の間で適切でない言葉使いをしていることもあるため、今後も継続して指導をしていきたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 83% → 100%	17%	83%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	57%	43%	0%	0%	
					保護者	○ → ◎ → ◎	79% → 100% → 90%	10%	80%	10%	0%	
14	本校では、心のアンケートの定期的な実施や日常の触れ合いを通して児童理解に努めていますが、教員は、児童の変化や悩みに適切に対応していると思いますか。	A → A → A	全教職員で情報交換を密に行い、児童の心身の状態について常に共通理解を図りながら接するよう心掛けている。また、学級担任だけでなく、全教職員で全校の児童を見守り、指導するようにしているが、児童の肯定率が前期に比べ低下していることを受け止め、今後はより一層、心配なことがあれば気兼ねなくいつでも相談できるような信頼関係作りに努めたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%	
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 100% → 87%	39%	48%	13%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	30%	70%	0%	0%	
管理・運営	15	本校では、避難訓練や防犯訓練、非常時の引き渡し訓練を実施しています。学校は、これらを通して児童に安全対応能力を育てていると思いますか。	A → A → A	災害はいつ発生するか分からない。自分の命は自分で守る意識が必要である。実際に災害が発生したとき起こるであろう混乱を想定した避難訓練を計画し、実施した。後期は、原子力災害の発生を想定し、市危機管理課と連携した避難訓練を行った。また、不審者対応訓練の際には、侵入ルートや、教職員・児童の動き等を計画段階から何度もシミュレーションして実施した。今後も、災害発生前後の市への連絡、保護者への対応、地域との連携等に冷静に対応できるように訓練を重ねたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 96% → 100%	30%	70%	0%	0%	
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%	
	16	勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っていますか。	A → A → A	超勤時間については良い傾向である。ただ、学校現場での取組には限界があるため、教職員一人一人が自分で意識(優先すべき内容、段取り等)して、働き方を改善していく必要がある。そして、働きがいのある学校経営に努めたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%
	17	一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら、組織として対応していますか。	C → A → A	児童の安全・生命・事故やいじめ・不登校、保護者からの要望等は管理職に報告する。基本である「報・連・相」はもちろん、最後の「確認(見取り)」まで徹底できた。今後も、職員朝礼や職員会議の場を活用して、情報の共有化も図っていきたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	67%	33%	0%	0%
	18	会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めていますか	A → A → A	会計事務や情報管理は、事務担当とも互いにチェックし合い、遗漏がないように行った。不祥事防止のため、定期的に不祥事防止チェックを実施した。常に全体の奉仕者である意識を持てるように職員会議等で服務の順守を促していきたい。		教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	83%	17%	0%	0%